



Okamoto Hiroshi  
Teaching of 12

宮大工棟梁 岡本 弘

# 十二の教え

宮大工棟梁 岡本弘 十二の教え

謝学順備 感束能 繼謙命誠礼



の宮  
仕大  
事工

SINCE 2001

京都社寺建築

有限会社 匠弘堂

作業所・事務所

京都市左京区静市野中町 413 〒601-1122

PHONE : 075-741-1888 FAX : 075-741-1889

URL [www.kyoto-shokodo.jp](http://www.kyoto-shokodo.jp)

E-mail [info@kyoto-shokodo.jp](mailto:info@kyoto-shokodo.jp)

有限会社 匠弘堂



謝学 順備 感束能 繼謙命誠 礼



岡本弘

宮大工棟梁 岡本弘

# 十二の教え

の宮  
仕大  
事工

SINCE 2001

京都社寺建築

有限会社 匠弘堂

作業所・事務所

京都市左京区静市野中町 413 〒601-1122

PHONE : 075-741-1888 FAX : 075-741-1889

URL [www.kyoto-shokodo.jp](http://www.kyoto-shokodo.jp)

E-mail [info@kyoto-shokodo.jp](mailto:info@kyoto-shokodo.jp)



この度の東日本大震災により被災された方々が一日も早く平穏な日々を送れますよう、心よりお祈り申し上げます。

私が初めて岡本棟梁と出会った平成7年（1995年）も、阪神淡路大震災が発生した直後でした。それから平成13年にこの匠弘堂を起業し、丸十年が経過した節目の年に再び大きな天災に見舞われ、生涯決して忘れることのない平成23年になってしまいました。

自分の人生を振り返った時に影響を受けた人物が数名いるのですが、岡本棟梁は間違いなく一番目に挙げられる人です。家族でもない、血縁者でもない、この人のために何かさせてもらいたいと感じた初めての人でもあります。

「自分の生き方をどうしていけば良いのか」

社会人となってからは自問自答の日々が続きましたが、これに対する答えを導いてくれたのが正に岡本棟梁でした。

ものづくりに対して真摯に向き合い、こだわり、真面目に取り組む生き様に感動し、心の底から尊敬の念がわいてきました。それまでは「こうしたい、ああしたい」という自分の欲求ばかりでしたが、岡本棟梁のために役に立ちたいと本気で思えるようになり、人生の目的が明確になって澄み切った気持ちになりました。気が付けば一番弟子の有馬君（現専務取締役）と二人、岡本棟梁の前で頭を下げて「起業したいです」と進言していたのです。

あれから十年が経過しました。これを機にと、言葉少ない岡本棟梁が体を張って私たちに示したくれた「教え」を形に残そうとまとめたのが本書です。岡本棟梁の教えを実践するにはまだまだ道半ばではありますが、私たちの仕事とその熱い思いを、ものづくりに興味ある全ての人に伝えられれば、この上ない喜びです。

最後になりましたが、私どもを温かく見守りご支援をいただいている皆様方に心より感謝申し上げます。そしてこれからも皆様方のご期待に添うべく精進してまいりますので、どうか今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2011年 桜満開の京都にて

有限会社 匠弘堂 代表取締役

横川 総一郎



宮大工棟梁 岡本 弘  
十二の教え

目次

- 2 はじめに
- 5 弟子たちに伝えておきたいこと  
棟梁語録
- 32 広島県廿日市市の速谷神社にて
- 37 師匠の教えを受け継ぐ者たち  
・有馬副棟梁 師匠を語る  
・匠弘堂のスタッフより
- 50 『弘』という文字に込めた思い  
対談 岡本棟梁×横川社長
- 54 有限会社匠弘堂 会社概要

弟子たちに  
伝えておきたいこと

棟梁語録

# 誠

見える所は当たり前  
見えない所ほど  
気配りをせなあかん  
それが建物を強固にし  
百年、二百年と美しさを  
保つことができるんや  
解体しても  
恥ずかしいない  
仕事をせなあかん



# 感

宮大工は見られるのが仕事  
見られる商売や  
つまりわしらの仕事は  
感動を届けることや  
それにはまず  
己が感動せなあかんわな



# 備

早起きしてノミを研ぐ  
これが気持ちいいんや  
しっかり準備して  
一日の仕事に備える  
仕事は段取りがすべてや



# 学

若いうちも  
歳をとってからも  
とにかく勉強せなあかん  
先人の知恵と対峙<sup>たいじ</sup>するには  
とにかく勉強せな  
わからんのだ



# 謝

間違った時は  
素直に謝るべし  
心から謝るべし  
悪かったと思う気持ちを  
絶対に忘れず  
感謝という気持ちで  
頭を下げる



# 順

順序を間違うたら  
組めるもんも  
組めんようになる  
逆らってもいかな  
ようは順々にや



# 礼

人には礼をつくせ  
世話になった人には  
礼をつくせ  
年上、年下は関係ない  
おかげ様の気持ちで  
礼をつくせ



# 能

最低ひとつでも  
得意なものを持っておけ  
生きて行く足しになる  
飯が食える糧になる  
そこから己が見えてくる



# 謙

常に謙虚でないとかかん  
天狗はあかん  
わしらがやっていることは  
全て先人が  
残してくれたこと  
自分が：  
なんて思たらいかん



# 束

人を束ねる基本は  
まず己がやってみる  
先頭きってやってみる  
そしたら  
人はついて来るから



# 命

どんな木にも命がやどる  
そんな大切な木を  
使わせてもらう  
人の営みとして  
使わせてもらう  
そやから大事に扱わな  
あかんのや



# 継

継手や仕口というものは  
各部材を連結させて力を  
伝える方法  
大工技術もしっかり継げて  
次の世代に伝えるのが  
棟梁の仕事



岡本 弘



## 岡本棟梁から教わる 心に残る言葉

広島県廿日市市 速谷神社

宮司 櫻井正弥

岡本さんとの最初の出会いは、当社社殿造営の昭和62年の秋でした。京都での刻み加工や仮組みなどを経て境内に搬入して一年間、岡本さんたちの手による立柱、棟上げなどの仕事を垣間見させていただきました。そして無事に竣工しました。総檜造り

の銅板葺き332平方メートルで、本殿・祝詞殿・幣殿・拝殿へと続く複合社殿。拝殿正面には向拝唐破風と千鳥破風を載せ、左右翼廊をつけて祈禱殿を配しました。

仕事の合間に岡本さんより、「神社建築の基本は木造です。木は土に生き、山に育った樹木の生命力をその建物に付与することができ、コンクリート造りではそれができず、木造はそれが可能です。昔から『お宮は檜、お寺は櫻』と言われ、檜は刃物の切れが良く、桎目の用材を使うと神々しく気品に富んだ建物になりますよ。」と教えていただいた。さらに加えて、「コンクリート造りは、カタはできてもカタチはできない」と話されたことを今も心に残っています。

日本文化は欧米の石造文化と異なり木造文化の国です。神宮の式年遷宮のことを考えても、20年ごとに社殿を新しく造営し、神威の発揚、生命力の更新をはかつていくことは神道の本義です。木造の社殿は神々しく荘厳さは木に優るものはないと思います。社殿をはじめ神社の信仰空間から参拝者をして神々しさに気付き、清浄な気持ちになり、心も洗い清められるのです。

敬称略

## 昔ながらの宮大工

日本建築工藝設計事務所

相談役 小橋英雄

速谷神社の社殿御造営で大工工事を請負って頂いた工務店、その棟梁が岡本君でした。若い大工さんを指導しながら頑張った。若い大工さんを指導しながら頑張った。若い大工さんを指導しながら頑張った。若い大工さんを指導しながら頑張った。

数年後、引き続き社務所の設計依頼があり、社殿手前の造営の為、木造に拘り図面を完成しました。工事業者も決まり、改めて櫻井宮司様より大工工事には岡本棟梁を指名して頂いた記憶があります。昔ながらの頑固者の宮大工、その者が岡本君で違った意味で気配りの利く棟梁です。

社務所の工事中に思い出すのは見習い大工に親子以上の差がある若い娘さんがいて、地下足袋を履きながら、いつも棟梁の傍に居たのを良く憶えています。

その事はさて置き、岡本棟梁の若手への指導方法は、多くの事は語らず、昔ながらの見て覚えさせる、自分で考えさせる事を弟子たちに教えておられたと思います。

そして今日では、若手も立派になり今後の仕事振りが楽しみになってきました。岡本棟梁の益々の活躍を祈っています。

敬称略

## 「工匠 岡本 弘」の魅力

松井建設株式会社 名古屋支店  
元副支店長 江頭且敏

岡本棟梁と触れ合った方はいろいろな想い出をお持ちだと思います。私も彼の素顔に感銘を受けた一人で、想い出は語り尽くすことが出来ません。

唯、「木」に魅せられ、参拝者・崇敬者各位が手で触って確かめられる「木の温も

り」を後世に伝えようとする姿勢が岡本棟梁の原点だと感じました。

「木の温もり」は彼の指導方法にも表れ、相談役として籍を置く有限会社匠弘堂での宮大工育成に於いても若人を惹きつけております。（余談ですが技術伝承とは別に「缶ビールを片手に持った笑顔」・「奥方への思いやり」も後輩・弟子に伝えて戴きたいものです。）

伝統技術継承が危惧される昨今、工匠の技を伝えて行こうとする匠弘堂を、棟梁が脇役に徹し匠の技で見事に支え、それに経営者二人が応えています。

「工匠 岡本 弘」の魅力は多くの方が十分知り尽くしています。ここにその魅力を十分に引き出し継承したお二人（「経営に活かした社長」・「技術を継承した専務」）に、棟梁を称えんと共に敬意を表したいと思います。

節目の十年、岡本棟梁のご健康とご活躍、これからは継承し支える立場となる匠弘堂の今後のご清栄をお祈りいたしております。

敬称略

## 「手を合わせ拝んで頂く 建物を造るのが 宮大工のしごと」

広島県 永本建設株式会社  
代表取締役 永本清三

25年前になるだろうか、広島県廿日市市の速谷神社の造営の時に初めてご一緒させていただきました。この言葉を岡本棟梁から、大工の心構えとして教わりました。

仕事に妥協しないものづくり、見えないところにまでしっかりとした仕事をする職人魂を注入されました。それをまざまざと感じたのが屋根足場を外し初めて外観が現れた時です。ご近所の氏子の方が初めて見る屋根の全景を見ながら、まだまだ内部は工事中なので当然ご神体もない建物に自然に手を合わせ拝んでおられるのです。感動を与える建物を造る事は素晴らしい事だと見ている私自身が感謝の気持ちになりました。それ以来、感謝しながら仕事ができるようになりました。

もうひとつ職人氣質の本気の勝負を見た事が有ります。設計事務所での検査の時です。軒反りを完璧な曲線にするのが職人です。それを検査する設計士もこれまた職人です。丸鉋で二削り分の厚みわずか1mmに満たない曲線の削りを残しておくのです。そしてその検査の時にその箇所を指摘して1mm削り直させる設計士もこれまたあつばれ、プロの信頼関係はこんな些細なことでも互いを尊重し合える仲になるんです。そんな仕事に体する取り組み姿勢を仕事が終わった後、飯場で350ccの缶ビールひとつずつを積み上げながら語り合った事が懐かしく思い出されます。

いつまでもお元気で活躍いただき、岡本イズムを若い職人育成に力を注いで頂きたいものです。そして、またどこかで、缶ビールの積み木でもいたしましょう。

敬称略



師匠の教えを受け継ぐ者たち

の宮  
仕大  
事工



広島県廿日市市の速谷神社にて



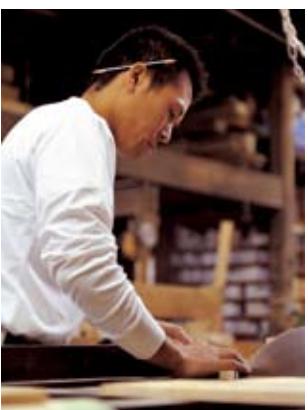
# 有馬副棟梁 師匠を語る

## 「棟梁」は絶対的な存在

宮大工の世界に飛び込んでから15年以上になります。その間、ずっと岡本棟梁（以下…棟梁）の下で仕事をしてきました。最初の頃は、棟梁に怒られるのが日課のような毎日でした。「そんなこともできんのか!!」なんて言葉は日常茶飯事。かと思えば、時には一生懸命に造作したものをみて「これならやらんほうがましやな」なんて、サラッと突き放される。とにかく毎日、グサグサと心を刺すような言葉を投げつけられました。

「辞めようと思ったことはないですか?」と聞かれることがよくありますが、ようやく就くことのできた宮大工の仕事です。辞めるなんてとんでもないことで、反対に「お前なんてクビや!!」と言われたらどうしよう…と、毎日不安でいっぱいでした。「クビ」と言われないうちに、またそう言われるまではがんばっていきましょう! そう思っって一日一日ががんばってきました。

私にとって、というか職人にとって、「棟梁」(師匠)というのは絶対的な存在で、「逆らえないもの」であり「逆らってはいけないもの」。とにかく食らいついでいこうと必死でした。怒られたら怒られたで、次は怒られないようにと努力をする。「認められたい」という思いだけでここまできました。その努力が経験となり、いつしか自信へと変わってきたのです。「自信は努力の上にしたかない」ということを、この仕事を通じて思い知らされました。努力したら努力しただけ



## 岡本棟梁の仕事

棟梁の仕事というのは、とにかくきれいなんです。仕上がりはもちろん、作業工程においても、動作の一つひとつにおいても、また身の回りや身なりまで、どれをとってもきれいなんです。「宮大工は常に人に見られる仕事」と棟梁は言います。宮大工は、仕事を、自分を演出できるパフォーマンスでもあるということを、棟梁の仕事の姿勢から学びました。

「職人に笑われるような仕事はするな!」  
「一人ひとりが職人であることを自覚しろ!」

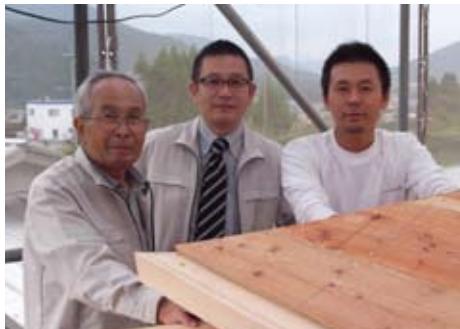
(岡本 弘)



また、棟梁は何事にも臨機応変に対応します。たとえば金物との付き合い方がそうです。「社寺建築に金物なんて!!」という人もいれば、「社寺建築にも金物は使うべき」という考えの方もいます。

棟梁はというと、その場その場にあつた対応をします。それは、建物の先に施主様を、そして建物の百年、二百年見据えているからだと思ふのです。「私の主義」という名目のもとで、自己満足の建物を造ってはいけない:棟梁はそう言いたいのだと思います。





## 宮大工としての心意気



棟梁からは、「宮大工のいろは」すべてを学びました。直々に教えてもらったこともありましたが、ほとんどが見て学ぶというか「技を盗む」と言った方が正しいかもしれません。

棟梁は若い弟子にもいろいろな作業をやらせてみます。私も、原寸書きや墨付けなどの作業を、二年目あたりからやらせてもらいました。一度うまくできると次も任されるので、俄然やる気が湧いてくるんです。



今、自分が「副棟梁」の立場になって分かったのは、若いものに重要な作業を任せるのは、とても勇気の要るということです。全責任を自分がとるわけですから、失敗したら修復するだけの技術が自分がないとさせられません。

私も若いころに大きな失敗をしたことがあります。棟梁は怒るよりも先に修復のことを考えていました。その方が、怒られるよりもずっと堪えたものです。未だに忘れることのない、苦くて良い経験です。



「百年、二百年と美しさを保つことができるものを造れ。」

解体しても恥ずかしいない、責任ある仕事をせい」

(岡本 弘)



棟梁は、自分の昔話や自慢話などをしません。表に出るこ

とも好まず、とにかく真面目に黙々と仕事をこなしていく人です。後世に残る建物を造ろうという意気込み「心」を、棟梁は態度や仕事に対する姿勢で、私たちに伝えてくれていると思っています。

そして、それを受け継ぎ、また次の世代に伝えていくのが、宮大工としての私の使命だと思っています。

そのことを岡本棟梁は体を張って教えてくれました。



棟梁は、一日中趣味の釣りをしてようが、作業場でお茶を飲んでようがそれはそれでいいんです。

元気でおってくれたらそれでいいんです。

それだけで、私は安心して仕事ができるんです。

有限会社 匠弘堂 宮大工副棟梁

有馬 茂



匠弘堂



ふじいよしのぶ

## 藤井義信

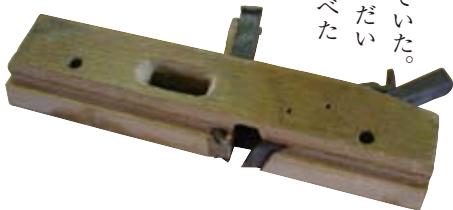
岡本さんは仕事には厳しいひと。自分から動いていくひとだから、棟梁としてパーフェクトな人物だと思う。そして、なんでもできる器用なひと。カンナやノミなど、作業に必要な道具をなんでも作る。

他の棟梁は「指示はするが自分は動かない」というひとが多いが、岡本さんは自分自身がまず動くので、下の者はその背中をみて学ぶことができる。「THE棟梁」って感じの人だよ。

自分は、技術は教わるというより盗むものだと思う。現場で棟梁がちよつと現場を離れている間に、今棟梁が作業していたところをこっそり見に行つて、その技を盗んでいた。「雛留め」などを見たが、やはり美しい出来栄だった。若い職人で美しく作るやつは他にもいるけど、棟梁は何をやってもうまいし早い。

泊りの仕事るとき、自分がよく手料理を作つて、棟梁にふるまっていた。

棟梁は自分から食べたいものを言わないけど、長いつきあいだから、だいたい好きなものがわかるので適当に作っていた。今日は酢の物が食べたんだな、とか。自分と棟梁の間にあるのは、いろんな意味で信頼関係だけだなあ。



ふじたみつる

# 藤田 充

以前はよく「言い訳しない!!」と叱られたことがあります。その当時は、まだ大工になって日が浅いこともあり、どうしてそう言われてしまうのがよくわからなかったのですが、今は少し分かるような気がしてきました。要は、「プロに徹しなさい」ということではないかと思うのです。

棟梁というのは、全く言い訳のできない立場なんだと知った時、自分のとった行動はなんて軽率なんだと思いました。そして、その棟梁から発せられた「言い訳しない!!」という言葉は、とても重みのあるものだと思います。

この言葉は、仕事をする際に常にこころの中にある言葉です。

ある現場での話です。門の改修の仕事でした。棟梁が先に現場に入っておられて、私は雑用等を終えて後から入っていったら、そこで仕事上の警備員の方に「あの方があんたんとこの棟梁？」と聞かれたので「はい」と答えると、「あの棟梁についていけば間違いないよ。がんばってついていきな」と言われました。驚いたのですが、実はこの時だけではなく、何度かいるいるな人に「この人についていけば間違いない」と言われたことがあるのです。



うえじのものり

# 上治知則

岡本さんは昔のことを自慢げに語る事がまったくありません。仕事中は難しい顔はされないし、いろんなこと、いろんな人を無意識でまとめるところがすごいと感じます。

上つ面の言葉なんかで語られるよりも、存在自体で語っているところが、岡本さんの器の大きさであり、目標としたい男の一人です。



ますだたかのぶ

# 増田貴信

作業中、足場がなくて、自分の道具箱を踏み台に使ってしまったことがあり、そのときに「道具箱は踏み台にしたらアカン」と言われたことが今も心に残っています。そして、棟梁は自分の使っていた道具箱を私にくれました。処分するつもりですが、私は今でもそれを大事に使っています。

ある現場では、休憩時間に釣り道具を釣ります。「大工のほうが副業」と言ってみたり。オンとオフのバランスを上手にとられているんだと思いました。





こもりたけし

## 小森 健

泊まりの現場も何度か一緒にさせてもらっています。食の好みとか、眠くなるタイミングとかいろいろなことがわかってきました。

ある現場で、私の作った豚汁を「いける！」と言って食べてくれたことが、今も心に残っています。

もちろん厳しいところもあります。棟梁が来られているだけで、作業場や現場はピリツとしますから。緊張感とそして安心感に包まれるんです。



## 光富宏治

みつとみこうじ

とにかく無駄な動きが全くないのが棟梁です。ウロウロしているところを見たことがありません。見習いたいところの一つです。

とても穏やかな人で、そしてとても親切です。いろいろと教わりたいこともあり、機会を見つけては聞きに行ったりしています。

入社1年目のお正月に「年賀状」をいただきました。もちろん自分からは出していますが、まさかお返事をいただけるとは思っていませんでした。とても嬉しかったです。



たかはしひろゆき

## 高橋弘之

棟梁は、仕事でも休憩中もとても良く周りを見ています。ある日、鋸の目立てをしてみようと思ったときに、何も道具を持っていなかったのですが、板を何枚かわせて鋸ばさみを作りました。それを棟梁が見てくれていたみたいで「よく考えたな」と言ってくれ、嬉しかったです。



## 竹本睦子

たけもとむつこ

棟梁はとても気を遣われる方です。自分だけのために、誰かの手間をとらすことを嫌がります。たとえば、休憩中に温かいお茶がほしいのが棟梁だけだとすると、こちらは全然構わないのに、「それならいい」とおっしゃったり。

作業中も、下の人に対しても「〇〇取って」などは言わないんです。だから、下の人たちは棟梁の意識の先を読んで動かさないといけない。基本的に、自分で動く方です。下の人に聞かれたことは丁寧に答えるけれど、自分からは言ったりはしないです。





たかはしじゅんすけ

## 高橋潤介

私は岡本棟梁のように、宮大工という職で人に感動や喜び・幸せを与えることができる人間になりたいです。まだ右も左もわからないことばかりですが、技術はもちろん精神面も一人前になれるよう、初心を忘れず、一日一日を精一杯努力したいです。



# 「弘」という文字に込めた思い

## 対談 岡本棟梁×横川社長

横川 この平成23年で大工生活も60年になりますね。今まで聞く機会があったのですが、そもそも大工になったきっかけは何だったんですか。

岡本 昭和24年の6月、中学校の第二期を卒業した15歳の時に、父親が大工だったからその手伝いを始めたのがきっかけや。

ちょうどその夏に、水害で木製の橋が壊れてね、その修理をしたのが初めての仕事になるかな。橋というんは、架けた時に橋の名前と年月日を入れるやろ。父親に彫ってみろと言われて彫って見たら「まあ、こんなんでいいわな」と言われて使おうてももうたのは覚えてる。それからやね。

横川 初めての仕事で彫ったものが使われたのですか。それまでに彫り物の経験は？

岡本 ないない（笑）。好きやったけどな。父親の仕事は見てたから、見よう見まねやね。

横川 棟梁の器用さというのは、持って生まれた物なんです。何をしても上手くてきれいなのが棟梁の仕事だから。いや、驚きです。では、それからずっと大工一筋なんですか。

岡本 そう。父親の手伝いをずっとしてたね。大工というか、半分は土方のような仕事もしたわな。

父親は宮大工ではなかったけれど、神社の屋根替えなんかはしてたら、檜皮を上に乗せる作業を一緒にしたり、竹の釘を手作りしたりね。松皮葺きの屋根は、すべて竹釘を使わなかつたから、昔はそれを大工が作ったもんや。今はそんなのは使う機会ないけど、まだ作り方は忘れてないけどな。それから、昭和37年8月、故郷岡山から神戸に出てきたんや。

横川 お父様は宮大工ではなかったんですか。では、宮大工を志すようになったのはいつ頃ですか。

岡本 いろいろな現場で仕事をしてたんやけど、娘が小学校6年生くらいときかな。塾に行き始めてね。そしたら、塾で優秀やったらしく特待生になったんやわ。それを聞いて、「これは親父もがんばらんと！」と奮起したわけ。娘が誇れる親父にならなあかんと思ってね。

その頃、ちょうど一緒にやろうと声をかけてきてくれた人がいて、それから社寺を扱う宮大工の仕事専門になった。その人が経営の方を担当して、自分は実際の現場を担当。棟梁として全責任を負うことになったわけやね。

師匠なんておらんから、本を読んだりして宮大工の専門的なことは独学してね。任された以上は責任があるから、とにかく勉強したわ。そして、後は実地。実際に納得いくまでやってみる。人に説明できるようになるまで、とにかくやってみる。

それで、最後に施主さんに喜んでもらったり、ほめてもらったら嬉しくてね。「次はもっと良いもの造ろう、もつとがんばろう！」って思えるやろ。その思いだけでここまで来たわ。

横川 棟梁が「相手に喜んでもらわなあかん」といつも私たちに言われてたことを思い出します。これまでの経験が、職人として目指すべき道として、この言葉には詰まっていたんですね。でも、いきなり「棟梁」になったんですね。

岡本 「棟梁」というか、まあ責任者やからそうなるかな。特に意識したことはないし、そう呼んでほしいと思ったことも言ったこともない。ただ、周りがそう呼んでくれるので、「棟梁」と呼ばれたら「はい、何ですか」って答えてきただけや（笑）。

横川 その謙虚な姿勢が、岡本棟梁らしいですよ。私も棟梁と15年以上のつきあいになります。今日は、初めて何うか苦労話を聞いたことがあります。今日、初めて何う話が多くて驚いています。どうして今まで聞かせてくれなかったのですか。



岡本 昔の話Ⅱ失敗の話や。そんな失敗した話なんて恥ずかしくてできへんわ(笑)。

ただし、失敗は必要や。いろいろな経験が人を育てる。失敗や間違いは誰にでもあるもので、要はそれをどう直すか、補修するかが問題。それも経験がないとできないからね。

若いもんにも、いろいろな仕事をさせるようにしてる。たとえ間違いがあっても、実際にやってみないと自信もつかないからね。

横川 そうやって弟子を育ててきたんですね。大事な仕事を任せるなんてなかなかできないと思いますが、これも岡本棟梁流なんですね。私の知る有馬君以外の弟子は、何人くらいいるのですか。

岡本 弟子なんてそんなおらよ。一からちゃんと教えたのは有馬くらいじゃないか。あとは藤田が少し。有馬は本当に器用でね、一度やらせてみると次からはもう完璧にできる。もう何でも任せられるから、わしも随分ラクさせてもらってる。

横川 私も「岡本棟梁の弟子」と言わせてもらってよいですか？(笑)

棟梁からは私をはじめ、大工たちはたくさんのお教えをいただいてきたと思います。中でも、弟子たちを育てる際に一番大事にしている技術面は何ですか。

岡本 やっぱ原寸書きやね。これがすべての基本。原寸をしつかり書いてから作業をしないと、目分量で仕事したら必ず失敗する。これはわしも経験済みのこと。防げる失敗はしたらあかん。それさえきっちりとできるようになれば、後は実践でどんどん覚えていくもんや。なんでもそうだけど、基本ができてないとあかんわな。

横川 では、最後に私の方からですが、岡本棟梁に謝らなければならぬことがあります。「匠弘堂」という会社名についてです。

会社を興す時に棟梁から「岡本」というわしの名前が使わんといってくれ」と言われたこと、覚えておられますか？

岡本 そう言えば、そんなこと言うたかなあ。

横川 私はとても悩んだのですが、全く良い名前が浮かばなかったの

です。で、もうどうすることもできなくなって、棟梁の言葉を逆手に取り、

「岡本」がダメなら、「弘」は良いだろう！と勝手な解釈で「弘」という岡本棟梁の一字を使わせていただいたのでした。申し訳ありませんでした。

岡本 いやいや。少しばかり恥ずかしいけど、良い名を付けてくれたなと感謝しているよ。

横川 私は、岡本棟梁に出会えて、一緒に仕事をさせてもらって、本当にありがたく思っていますし、岡本棟梁なくして「匠弘堂」は存在しえなかつたと考えています。私たちをここまでご指導・教育していただき感謝しています。

岡本 わしは、とにかく施主さんに喜んでもらえるような仕事をすることを心がけてきた。それと、棟梁として、宮大工として大事にしてきたことは、後継者を育てること。わたしが造る建物は、100年、200年後に必ず修復せなあかん時が来る。それをまた同じようにできる人間がいないと困る。そのためにも人を育てていかなあかん。

この会社は、若いもんを育てることができる場となってくれてる。宮大工として義務を果たすことができたわ。だから、この会社を作ってくれたことは、本当によかったと思ってるよ。

横川 その言葉を聞いて安心しました、と同時に岡本棟梁の言葉の重みを改めて感じました。皆で棟梁の教えをしつかり受け継いでいくためにも、「匠弘堂」で良かったと確信しました。

今日は本当にありがとうございました。そして、これからも引き続きよろしくお願ひいたします。

わしは、ほんとにラクになったわ。

これからは、有馬のよこで茶でも飲んどくわな。好きな釣りもたくさんさせてもらうな。



# 匠弘堂 会社概要

名称 有限会社 匠弘堂（しょうこうどう）

作業所 〒601-1122 京都市左京区静市野中町413

事務所 電話（075）741-1888  
FAX（075）741-1889

法人化年月日 平成13年2月21日（2001年）

資本金 1000万円

事業内容 社寺建築、設計・施工

主要取引銀行 京都銀行百万遍支店  
滋賀銀行一乗寺支店  
京都中央信用金庫百万遍支店  
京都信用金庫岩倉支店

役員  
代表取締役 横川 総一郎（設計室長兼任）  
専務取締役 有馬 茂（宮大工副棟梁）  
相談役 岡本 弘（宮大工棟梁）

建築士事務所登録  
有限会社匠弘堂 二級建築士事務所  
京都府知事登録（23B）00760号

建設業許可  
建築工事業 大工工事業  
京都府知事許可（般-23）第33568号

URL [www.kyoto-shokodo.jp](http://www.kyoto-shokodo.jp)

E-mail [info@kyoto-shokodo.jp](mailto:info@kyoto-shokodo.jp)



[www.kyoto-shokodo.jp](http://www.kyoto-shokodo.jp)

# 宮大工として 生きる

有限会社 匠弘堂 企業理念

私たちは、岡本棟梁より受け継いだ  
伝統的木造建築技術を駆使して、  
高い品質と大きな感動を届け、  
日本文化の伝承と発展に貢献します。

## 匠弘堂とは

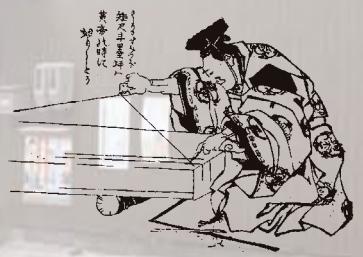
脈々と受け継がれてきた日本独自の伝統文化である社寺建築、これを後の世に残す橋渡しの役割を我々の与えられた使命として果たしたい。これが「匠弘堂（しょうこうどう）」の姿です。  
わが国の建築は、大陸渡来の技術を礎にそれからの千数百年の歴史の中で、風土に融和した独自の様式・技法を育み、伝えてきました。このすばらしい木造建築技術を守り続けてきた宮大工という仕事に、誇りと自覚を持ち、自らも精進し鍛え、大切な浄財から堅固で美しい伝統建築をひとつでも数多く残すお手伝いをさせていただくことが我々の仕事です。

## ◆役員プロフィール

**岡本 弘**  
匠弘堂相談役、宮大工初代棟梁。昭和8年岡山生まれ。  
60年以上の大工キャリアを持ち、独学で社寺建築の極意を切り開き、宮大工棟梁となる。主な作品に奈良吉野神宮、広島速谷神社、尼崎東光寺門戸厄神、西宮善導会五重塔、奈良丹生川上神社等、多数。  
「たぐさんの人との出会いが私の宝。次は後継者の育成に尽力したい。」好きな言葉は「男たるもの『のふうぞ』」（岡山弁の「やんちゃ」たれ）  
趣味は釣り。酉年、AB型。

**横川 総一郎**  
匠弘堂代表取締役、設計、営業、積算、経理担当。昭和39年京都市生まれ。  
大学では機械工学を専攻、家電メーカーを経て建築設計の業界へ飛び込む。現場にて岡本棟梁らと出会い、感銘を受け、岡本棟梁らと入門。のちに3名で「匠弘堂」起業。松下幸之助氏の「志あれば道はかならずひらける」が信条。  
趣味は楽器演奏、ドライブ。辰年、O型。

**有馬 茂**  
匠弘堂専務取締役、宮大工副棟梁。昭和48年福岡生まれ。  
北九州高専で化学工学を学ぶも、阪神大震災をひとつの機に、サラリーマンから宮大工を志す。以後、岡本棟梁の下で修業し、「五重塔のように逆らうことなく自然体で、基本的に、全力全身、社寺建築のために尽くしたい」という信条で歩み続ける。  
趣味は津軽三味線。丑年、B型。



## 一、品質力

「宮大工の仕事」であるという誇りと責任を持ち、お客様の満足が得られる高い品質を提供します。

## 一、人間力

常に「宮大工」という公人であることを自覚し、心からものに感謝し人に感謝することで、人間として成長し続けます。

## 一、技術力

伝統技術に創意工夫を加えた、「匠弘堂」にしかできない高い技術力で、世の中になくてはならない「宮大工集団」を目指します。

宮大工  
の仕事



高田無佛堂  
2010年 / 兵庫県篠山市



浄信寺 本堂・山門・鐘楼  
2002年 / 大阪府堺市



正楽寺 本堂 (修復)  
2006年 / 大阪府泉佐野市



正楽寺 本堂 (修復)  
2006年 / 大阪府泉佐野市



白山八幡宮 本殿 (修復)  
2000年 / 広島県五日市市



浄西寺 山門  
2007年 / 山口県下松市



速谷神社 社務所  
1999年 / 広島県廿日市市



速谷神社 社殿  
1988年 / 広島県廿日市市



明休寺 本堂  
2008年 / 広島市安佐南区



丹生川上神社 社殿  
1998年 / 奈良県吉野郡川上村



随縁寺 本堂  
2006年 / 滋賀県野洲市



和歌山県神社庁 玄関唐破風  
2007年 / 和歌山市和歌浦南



施工事例



本泉寺 本堂 (修復) 2005年 / 兵庫県伊丹市



妙玄寺 山門・鐘楼  
2002年 / 兵庫県宝塚市



藤森神社 拝殿 2003年 / 大阪府摂津市



土佐稲荷神社 社務所  
2009年 / 大阪市西区



安楽寺 多宝塔  
1990年 / 徳島県板野郡



安楽寺 金剛宝拝殿  
2011年 / 徳島県板野郡



門戸厄神東光寺 山門  
1996年 / 兵庫県西宮市



本願寺 防災センター 2008年 / 京都市下京区



施工事例



浄圓寺 本堂・客殿・庫裡・山門・鐘樓  
2005年 / 京都府城陽市



恩智神社 拝殿  
2000年 / 大阪府八尾市



門戸厄神東光寺 厄神堂  
1983年 / 兵庫県西宮市



門戸厄神東光寺 薬師堂  
1987年 / 兵庫県西宮市



天光会 社殿 2010年/京都市左京区  
天光会 社殿 2010年/京都市左京区



善導会 五重塔 1989年/兵庫県西宮市



妙宣寺 鐘楼(修復) 2008年/兵庫県伊丹市



善光寺 鐘楼 2011年/京都府福知山市



施工事例



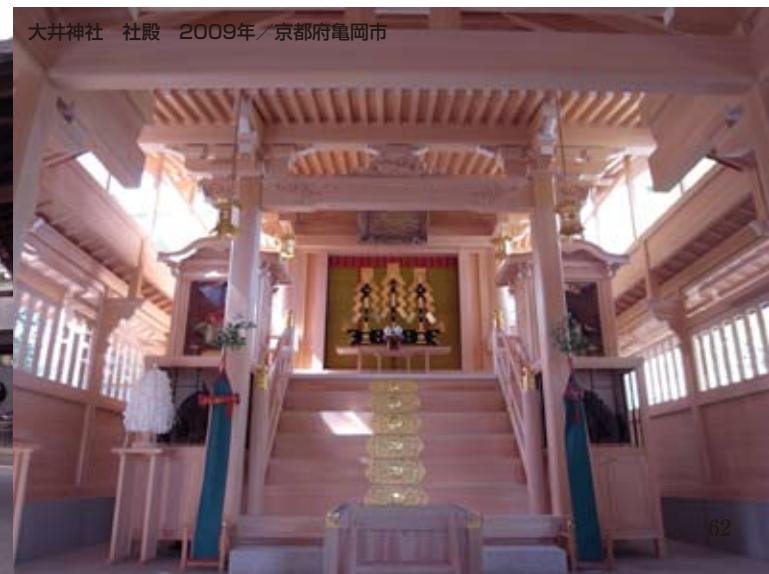
妙法寺 護摩堂 2006年/兵庫県神戸市



法性寺 仁王門 2005年/大阪府大阪市



大井神社 社殿 2009年/京都府亀岡市



大井神社 社殿 2009年/京都府亀岡市



しょうこう どう

**匠弘堂** という社名

匠…江戸時代以前、大工のことを「番匠」といいました  
弘…私どもの宮大工棟梁“岡本 弘”より一字拝借  
堂…建物という意味で用いました

つまり「匠弘堂」とは、“宮大工棟梁 岡本弘の建てた物”  
という意味なのです

宮大工棟梁 岡本 弘

# 十二の教え

初版 第1刷 2011年7月16日 発行  
第2版 第1刷 2022年2月21日 発行

有限会社 匠弘堂 岡本 弘（宮大工棟梁）  
有馬 茂（宮大工副棟梁）  
横川総一郎（Design & Management）  
& 匠弘堂 Staff（2011version）

All Tracks Produced 横川総一郎（有限会社匠弘堂 代表取締役）  
Editor 小笠原景子（STUDIO 桜）  
Photography 小笠原敏孝（STUDIO 桜）、横川総一郎  
Design 岡田 健  
Working Uniform 湯川 工：dimo（マルギ繊維㈱京都支店）  
Printed 三共プリンテック㈱

Special Thanks to... 速谷神社：櫻井宮司、大井神社、日本建築工芸設計事務所：小橋相談役、同左：松島代表取締役、北海道：江頭且敏氏、永本建設㈱：永本社長、永田社寺彫刻：永田幹生さん、  
（敬称略、順不同） 岡本棟梁のご家族、椿野さん、梅本さん、エミッチさん、前川実さん、則藤先生、京建労の皆さん、北村恵さん、佐々木さん、瀬戸英雄さん、原田さん、佛太田建設、  
税理士法人洛の先生方、大龍堂書店、サトウ金物、WATANABE、ぐろっと：高田さん、谷口兄弟治療院の皆さん、狐囃庵：梶原先生、吉野の森口さん、佛永勲業工場、振本ありささん、  
ドイツ：トニー&ステファン、三浦さん、Shiki Design、見学に来ていただいた皆さん、the 二人バンド、山嘉商店㈱：山田博之氏、スタッフの家族、うちの家内  
今までもこれからも、岡本弘=匠弘堂をご支援いただいている、またはいただく予定の皆様方…。

この本は、一定期間貸与非許諾商品ですが、この期間経過後も、権利者の許可なく貸貸業に使用すること、ネットワーク等を通じてこの本に掲載された内容を閲覧できる状態にすることを禁じます。また、個人的に楽しむなどの場合を除き、著作権法上、無断複製は禁じられています。